

—某テレビ局〇〇ディレクターとの往復メールの紹介—

件名：ご無沙汰しております。〇〇テレビの〇〇です。

橋本英樹さま

お久しぶりです。突然のメールすみません。ご住職・旧檀家の皆さん、お寺に関わる全ての方が願っているように、お寺が良くなる方向に進んでいるのか気になりましてメールをさせていただきました。

テレビが介入したことで、悪い方向に向かっていないか心配しております。

この間の会合で話し合われた、旧檀家の皆さんからの質問状の件はうまく進んでいるでしょうか？差し支えなければ教えてください。今後ともよろしく願いいたします。

件名：Re：〇〇〇〇〇

〇〇さんが作られた番組は大好評で何人もの方からこれまでで最高だったという声は多数いただきました。どうかご安心してください。お寺の状況としては僭越ながらも絶好調という他ないと思います。これからも謙虚にして驕らずをモットーに正しい信念をもって突き進んでいきたいと思えます。近く現在の心境とこれからの思いを随筆として認（したた）めますので出来次第お送りいたします。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

因みに質問状は宗門関係者が来寺して手渡してきましたが残念ながら無意味なお粗末な内容ではありました。いずれこれも参考にご送付させていただきます。

もう一言 檀家制度不要論。違う言い方をすれば檀家がなくても生きていける、檀家と仮に袂を分かってもお寺として独立し成功を収めてしまうと困るという人は少なからずおられるようです。さらに近隣寺院とも距離を置いております。世の中の動きがそちらにシフトしてしまうと世代交代が一気に進み既得権益をもった人たちが居場所がなくなってきます。そして維新に傾くということです。

件名：Re：〇〇〇〇〇

確かに、革新的な行いは、旧体制には理解してもらえず、逆に排斥しようとする動きになりますね。それに抗（あらがう）ために維新という強い行動が生まれたと思います。近隣寺などの旧体制は、なぜ、「檀家を無くす道」「檀家を守る道」二つの道を認めることができないのでしょうか？そういうお寺があってもいいじゃないですか！仏教は寛容の宗教と理解しているんですが、そこは不思議に思います。見性院を大切に思う、ご住職、旧檀家さんとの心の着地点が見つかる日を願っております。

件名：Re：〇〇〇〇〇

貴重な適格なご意見をありがとうございます。おそらく大袈裟に言えば後世の歴史家がいまの時代の趨勢を評価するなら近代仏教史の歴史的転換点たつたと位置づけると思います。そのくらいの仏教的危機的状況に突入していると思います。これだけそれぞれの思惑が入り混じる社会情勢は近年ではなかったのではないかと私は考えております。仏教は寺院はどこに向かうのか評論家的には目が離せない面白い時代ではないでしょうか。私見では間違いなく崩壊から創造の流れにあると読んでいます。

件名：Re：〇〇〇〇〇

(中略)改めて現在の心境を論文にしますのでご期待ください。天の配剤かはたまた偶然か過日かの抵抗的一行の中のお一人がお亡くなりになりました。申し上げにくいことではありますが不徳の人ではありました。これで旧檀家の造反組が急速に萎（しおれ）れていきそうです。残念ながら時代に抗することは難儀なことかもしれません。こちらは冥福を祈りつつ謙虚に初志貫徹していくのみです。これも〇〇さんの見事なまでの番組作りによって世の中の人々が応援してくれているおかげです。良い年にしていただいたこと改めて御礼申し上げます。